

平成 28 年度 第 4 回東御市総合教育会議 会議録

1 日 時

平成 29 年(2017 年)2 月 23 日(木) 午前9時から 10 時まで

2 場 所

本庁舎2階 公室

3 議 題

- 1 東御市小学校施設長寿命化計画(案)の確認について
- 2 学校給食における今後のアレルギー対応方針について
- 3 平成 29 年度新入学児童生徒学用品費の増額について
- 4 アケボノゾウの今後の取り扱いについて

4 出席者

○市長 花岡利夫

○教育長 牛山廣司

○委員

教育長職務代理者 下村征子

委員 小林経明

委員 小林利佳

委員 直井良一

○その他

清水教育次長、小林教育課長、勝山生涯学習課長、

武田学校教育係長 柳橋青少年教育係長

堀田生涯学習課長補佐文化財・文化振興係長

会議録

清水教育次長

ただ今から、平成 28 年度 第4回総合教育会議を開催します。
はじめに、市長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

おはようございます。昨日から議会が開会しました。今回の補正予算では、湯の丸へ陸上の400mトラック、800mのランニングロード、2.1kmの森林セラピーランニングロードを設置するという事で、当初は地方創生拠点整備事業においてスポーツ施設では対象から外す通達でしたが、観光と絡めた森林セラピーランニングロード、ということで県下でもかなり高い予算を付けていただいたことから、補正予算としてあげさせていただきました。また、平成 29 年度の予算ですが、総額は約 145 億円、教育関係予算は切り詰めない予算付けをさせていただきましたが、厳しい財政状況が続いているため、基金を取り崩して対応せざるを得ない状況です。引き続き、聖域なく行財政改革を進めていきたいと思っています。

市民にとって必要不可欠な事業を推進していくため、適正かつ適切なサービスを行いながら、それぞれの問題に対処していかなければならないと思います。「恩田木工」の例がありますので、過去の歴史に学びながら、しっかり理解を得ながら対応していきたいと思っています。

教育に関しましても節減できる場所、子ども達のためにしていかなければならないことをしっかりと見極めながら、進めていきたいと思っています。未来ある子ども達のためにも、皆さんからご意見等をいただき、良い会議となりますよう、お願いいたします。

清水教育次長

ありがとうございました。続きまして、教育長からごあいさつをお願いいたします。

牛山教育長

本日、第4回の総合教育会議となりますが、県下でも4回の会議を開催しているところはそう多くはないと思います。

今回の小学校施設長寿命化計画の策定により、幾つか先のことが見えてきました。その中でも、オリンピックを契機に、教育課程についても来年度から準備年ではありますが、平成 30 年度からの前倒しで進められていきますが、これから大きく変わっていくだろうと予感するとともに、実感が湧いてきます。従って、方向性を明確にしていく必要があります。

例えば、特別支援教育、ICT 教育についても方向性をはっきりさせていく必要があると思います。その基盤になるのが、今日、お考え頂く長寿命化計画から始まると思います。市長は 50 年、100 年先を見て、困難を乗り越えながら歩もうとしていらっしゃると思いますが、私どもが扱う教育は「生き物」という感覚がありますので、長くても、5年、最大 10 年先を見て進めています。何とか方向性を見

つけていきたいと思いますので、お知恵を拝借したいと思います。よろしくお願いします。

清水教育次長

ありがとうございました。早速、会議事項に入らせていただきます。

1 長寿命化計画はパブリックコメントを終了しまして、最終的には決定段階となりますので、ご説明を申し上げながら市長を含めまして、ご決定を賜りたいと思います。

2 アレルギー対策につきましては、30年度に向けて29年度は準備段階ですが、対応の方針の説明をいたします。

3 就学援助費における新入学児童生徒の学用品費につきましては、国の方針で単価改定があり、29年度以降は、各市とも国に合わせて基準額を引き上げるという動向の中で、どうしていくべきであるか方向を決めていきたいと思います。

4 アケボノゾウにつきましては、3月に県の天然記念物指定が確実にになりましたので、今後の整備、展示、公開の方針等につきまして説明しながら、今後の方向性を決めていきたいと思いません。

それでは、1 小学校施設長寿命化計画につきまして、説明をお願いします。

小林教育課長

東御市小学校施設長寿命化基本計画(案)

今後20年の長寿命化計画シミュレーションについて説明します。資料説明。

パブリックコメント 期間 1月30日から2月17日

清水教育次長

現況の把握と分析はこれまでしてきましたので、加えて説明しました、小学校ごとの工事の概要は、8億円から10億円くらいとなります。一般的に、長寿命化計画は建て替えの半分か程度の費用はかかる、と言われていています。現在、1小学校を建て替えるとなると25億円費用がかかるといわれていますので、1校あたり8億円は全国的にみて標準的な費用と言えると思います。

今後20年先の長寿命化計画シミュレーションは、改修優先度ランク別のシミュレーションも比較のため作成する必要があると思います。また、緊急度の高いものだけのシミュレーションの策定も考えております。

小学校ごとの分析は、専門の先生に見ていただいたり、学校側との協議の結果ですので、著しく現況が悪いトイレとICT教育環境は早急に改修し、Cランク(改修を検討する必要がある)につきましては、中期的に平準化して行く必要があると思います。計画本体と小学校施設ごとの計画はお知らせする必要があると思いますが、A(概ね良好)～D(要修繕)のランクについてはいかがでしょうか。

牛山教育長、

シミュレーションの中には、ICT教育の改修も入れていただいております、計画では2019年からとなっておりますね。今回の改修計画は、小学校を中心に描いておりますので、中学校についても同時に発生してくるわけですが、同時に中学校も改修していくと考えていくのか、あるいは、もう少し柔軟に段階的に考えていくのか、例えば小学校のトイレ改修のように2校、3校としていくのか。こうしたことは、これから考えていく、ということでしょうか。

小林課長

はい、そのように考えております。

清水教育次長

改修はハード整備のことですが、実はそれ以前に特別支援教育、ICT教育の基本的な考え方の方向性を示さなければならないと思っています。全体を改修すると相当の費用がかかりますので、この分野は小林経明委員からも前々からご指摘をいただいております。ICT教育につきましては、機械設備だけを導入すればいいという訳ではなく、使いこなして子ども達に習熟させていくというソフト面が必要不可欠です。しかし、先生たちにはお願いするのは厳しく、専門の外部の手助けをいただきながら教育を進めざるを得ない、早急に検討して方向を定めていく必要があると考えています。

設備、機械につきましても、環境がめまぐるしく変わる中で、必ずしも卓上のコンピューターにこだわる必要がない時代背景がありますので、ドラスティックに考えながら、乗り遅れないように、東御の子どもたちが社会に出たとき、ICT技術に困ることにならないよう、先を読みながら基本計画を立てていく必要があると思います。

いずれにしても、ICT教育については別の議論が必要ですし、中学校を絡めて基本計画を早急に立てる必要があると考えております。

小林経明委員

ICT教育にかかる事業費は、非常に単価が高いと思います。毎年指摘をしているところですが、参加させていただければ、本腰を入れたいと考えています。

また、Cランクでも仮に命に関わるような危険性のある箇所があれば、優先的に改修を望みます。

清水教育次長

Dランクにつきましては必須、Cランクにつきましては優先度の高い順に区分けをしながら、整備を進めていく必要があると思います。整備が必要な項目は、財政状況、必要状況を鑑みながら優先度の高い順に長寿命化計画を進めていきたいと思っています。

花岡市長

調査を行い、標準でも65年の耐用年数があることを前提に悪いところを直していくというのが今回の長寿命化計画ですが、その中で生徒数の問題等があり、ハードとソフトの問題が分かれてしまうと実情に合わないものを直してしまうことになりかねないと思います。

例えば、児童館・児童クラブの老朽化、現在の学区が65年後には生徒数が減少する、専門性が求められる外国語学習、インターネットの環境等々どのようにするのか、設計段階でもソフトを各小学校単位で入れ込んでいく、として出発していかないと、ハードを行ったのでこれで長寿命化は終わりです、とした時に小学校に対してイメージが出てこないと思います。基本的な方針として、Cランク、Dランクを行い、その方向を確立させながら各学校単位の将来像を1校ずつ仕上げていかないとイメージが湧きません。

清水教育次長

学区につきましては、今の状況で考えるという前提で進めています。また、学校ごとのイメージは専門家の視点から、これから学校をどのようにしていくのか、基本方針は出ていませんが、耐久度を確保しつつハード施設の環境を長寿命化、維持していくという考え方です。学校ごとの基本的な方針は、今後定めていく必要があると思います。

小林経明委員

ハードとソフトの融合した見通しは無い、ということですね。確かにそのとおりで、インターネット環境に関しても、このようなことが言えます。

この件は少し検討させていただいた方がよいと思います。

清水教育次長

特別支援教育、ICT教育、放課後対策をこれからどうすべきか、それぞれの課題を検討しながら、小学校ごとにどのような形にしていくのかは必要だと思います。29年度から早速、ICT教育については、日頃から積み上げて用意しておく必要はあると思います。

前段として、老朽化が進んでいる小学校のハードの大きな方針をこの計画の中で示させていただく位置づけで、これですべて終わりということではなく、むしろ、これからの学校の在り方、施設改修の在り方について端緒をついた、という意味合いです。

牛山教育長

2点ほど確認をしたいと思います。

各校の個別の計画が必要であること。

今回、長寿命化計画は20年先まで出していますが、ソフトと合わせて、改修が終わったらその都度見直し、5～10年で見直しをしていくことを確認したいと思います。

清水教育次長

基本的な整備方針について検討させていただきました。1 東御市小学校施設長寿命化計画(案)につきまして決定とします。

次に(2)学校給食における今後のアレルギー対応の方針について説明をお願いします。

小林教育課長

平成 29 年度以降の食物アレルギー対応について説明します。資料説明。

清水教育次長

国からの指針もありまして、今までやや、あやふやな対応をして参りましたが、平成 29 年度を準備期間とし、平成 30 年からは完全除去対応にしていきたいと思います。県内他市でも既に対応準備しているところもあります。

現在、アナフィラキシーショックに対応するためエピペンを配備している児童生徒もいますので、教職員等全員で認知しながら安全の確保を図って参りたいと思いますのでご理解をお願いしたいと思います。

次に(3)新入学児童生徒学用品の増額について説明をお願いします。

小林教育課長

新入学児童生徒学用品費の増額について説明します。

平成 29 年度要保護児童生徒援助費補助金(学用品費等)

予算単価及び国庫補助限度単価(案)

就学援助 19 市調査結果

新入学児童生徒学用品費の増額に伴う入学準備費支給者への対応について 資料説明。

清水教育次長

就学援助費の給食費につきましては、平成 29 年度から全額援助となり増額対応をしました。入学準備費につきましては、4 月から入学予定の児童生徒に、必要な時期に支給するというので、昨年末に取りまとめを行い、2 月に支給の手続きをしております。新入学児童生徒学用品費の増額への対応については、国の単価と同額基準としていますので、平成 29 年度は追加支給を見込み、増額されるので予算対応も必要になります。

小林経明委員

準備金は現金支給です。現物支給でないため、保護者が他の目的で使わないよう、支給後は支出報告書の提出をしていただくよう望みます。

花岡市長

入学するに当たり準備用品一覧表を作成し、保護者にお知らせすることも必要だと思います。

清水教育次長

今後、研究させていただきます。

(4)アケボノゾウの今後の取り扱いについてお願いします。

勝山生涯学習課長

アケボノゾウ化石資料(県手天然記念物指定)近々の状況と今後の対応について説明します。

東御市のアケボノゾウ化石パンフレット

平成 29 年 2 月 8 日新聞掲載 「東御市アケボノゾウ化石群」県天然記念物

県文化財保護審答申 資料説明。

清水教育次長

当市において、県の天然記念物指定は、祢津西宮にある「宮ノ入のカヤ」の木があります。動植物ではカモシカ、ミヤマシロチョウなどがありますが、市のオリジナルとなると、アケボノゾウの化石は2点目となります。数年前から県教育委員会に対し指定に向けた推進をまいりました。が、ようやく認定の運びとなりました。

今後の対応としまして、東御市の宝として収蔵整理だけでなく、公開展示が必要になってくると思います。また、市としてどのような対応をしていくか協議していく必要があると思います。

アケボノゾウの化石は全国的にみても少なく、大変貴重なものです。市民の皆さんへも市報等を通じて周知していきたいと思えます。

本日の議題につきまして、ご議論いただきましてありがとうございました。

それでは、第 4 回総合教育会議を閉会とさせていただきます。